

東京女子大学大学院博士前期課程

2026年度社会人対象

入学試験問題

人間科学研究科 人間文化科学専攻

現代日本語・日本語教育分野

専門科目(解答用紙4枚)

外国語(英語)(解答用紙1枚)

東京女子大学大学院(博士前期課程)

2026 年度入学試験 社会人対象

人間科学研究科 人間文化科学専攻 現代日本語・日本語教育分野 専門科目 試験問題 1 / 1

問題1 下記の中から、二つ選んで答えなさい。

1. 「～ている」が担うアスペクトの情報について、例を挙げて論じなさい。
2. 指示詞「これ」「それ」「あれ」の用法について、現場指示、文脈指示に分けて、例を挙げながら、説明しなさい。
3. 比喩表現の例を挙げ、どのような種類の比喩かを述べなさい。

問題2 地域日本語教育の歴史的背景と現在の課題を説明しつつ、以下の用語をすべて用い、それぞれの関係性がわかるように論じなさい。用いた箇所には下線を引くこと。

インドシナ難民、中国帰国者、日系人、移住配偶者、在留外国人数、
教師、支援者、コーディネーター、ファシリテーター、学習者、生徒、ボ
ランティア、行政、権力関係、学び合い、参加型学習、文型積み上げ型、
振り返り、「日本語教育の推進に関する法律」(日本語教育推進法)

東京女子大学大学院(博士前期課程)

2026 年度入学試験 社会人対象

人間科学研究科 人間文化科学専攻 現代日本語・日本語教育分野 外国語(英語) 試験問題 1 / 1

<辞書 1 冊使用可 電子辞書は使用不可>

問題 次の英文を日本語に訳しなさい。

Japanese use mutual apology as a social lubricant, a way of keeping things running smoothly. The emphasis here is on the phrase, “running smoothly”. Because of the concepts of interdependence and self-deprecation, one is always expected to apologize in any awkward situation, regardless of the degree of actual personal responsibility for the awkwardness, in order to keep things running smoothly.

Thus, the Japanese tourist guide apologized to the angry American tourist even when he knew that he had not been late, because at a time like that, Japanese feel that a mutual apology, indicating a willingness on the part of each party to consider the possibility of his own error, would calm things down so that the relationship could function smoothly.

Westerners, however, use the “adversary system” of mutual confrontation as a social catalyst, a way of getting things started and keeping things moving. The emphasis here is on the expressions “getting started” and “moving”. Apology, except in trivial matters such as accidentally bumping against someone, when a brief “sorry” is expected and its omission would seem rude, is usually considered to be a voluntary matter, not a required one, and is expected to be understood implicitly — it need not be stated in words, and to insist on a formal apology except in certain legal situations would be considered by many to be extremely ungenerous and inconsiderate, or even tyrannical.

In awkward situations, instead of apologizing, one is expected to present one’s own viewpoint as clearly as possible, and when the other party does likewise, then a decision or agreement can be reached or, as an often-used English phrase puts it, “hammered out” on the basis of the information thus obtained.

直塚玲子、坂本ナンシー、他著 (1981) *Mutual Understanding of Different Cultures*.
大修館書店. より抜粋

外国語（英語）

出題のねらい

専門の研究において英語の論文・書籍・資料などを活用する際に必要となる英文読解力を備えているかを見ることをねらいとしている。

解答例

日本人は、社交上の潤滑油、事を円滑に進める方法として、互いに謝罪し合う。ここで強調されるのは、「円滑に進む」というフレーズである。相互依存や自己卑下の考えがあるため、気まずい状況では、その気まずさに実際どれだけ個人的責任があるかに関係なく、事を円滑に進めるために謝ることが常に期待される。

そのため、自分が遅刻していないと知りつつも、日本人旅行ガイドは怒っているアメリカ人旅行客に謝った。そのような時には互いに詫言ひ、自分に非がある可能性を考える態度を双方が示せば、事を静めて関係も円滑になると日本人は感じるからである。

しかしながら西洋人は、相互対立の「反論のシステム」を、対人的触媒、事をスタートさせ動かしていく方法として用いる。ここで強調されるのは、「スタートさせる」「動かす」という表現である。うっかり誰かにぶつかるなどのささいな事、そういう時は短く「すみません」と言うべきで、言わないと無礼に見えるだろうが、そうした場合を除けば、謝罪は通常任意と考えられ、要求はされない。暗黙のうちに理解されると考えられ、ことばで言わなくてもよい。ある種の法的な状況を除き、正式な謝罪を強要するのは極めて狭量で配慮に欠け、非道ですらあると多くの人が考えるだろう。

気まずい状況では、謝る代わりに自身の見解をできるだけ明確に示すことが期待される。そして相手も同様にすれば、そこで得られた情報をもとに決定や同意を達成する、あるいは英語でよく使う言い回しのように「打ち出す」ことができるのである。

解説

一定の長さの英文を速読して理解する基本的な英語力を見ることが目的なので、難解な単語はほぼ含まない文章を選んでいる。適宜辞書も使いながら時間内に文章全体を訳出できるだけの語彙力と、やや複雑な構文でも的確に意味をつかむ力を、和訳解答から評価する。

専門科目

問題 1

出題のねらい

日本語学の基本的な概念について、理解しているかどうかを見ることをねらいとしている。

解答例

1. 継続性のある動詞＋「ている」の場合、進行中であることを表す。

例：「太郎が歩いている」 現在歩いている最中であることを表す。

変化を表す動詞＋「ている」の場合、結果残存を表す。

例：「彼は死んでいる」 死んだあとの状態であることを表す。

「彼は髭を剃っている」のように、継続性と変化のどちらも表し得る動詞の場合、進行中（今現在、髭を剃りつつある）と結果残存（剃ったあとの状態である）の両方の解釈が成り立つ。

その他、他の修飾成分によって「彼は何度も髭を剃っている」のように反復を表したり、「1時間前に髭を剃っている」のように経験を表したりする。

2. 現場指示：現場にあるものを指す。対立型と融合型がある。

対立型：「これは私の本で、それはあなたの本です。」

話し手の領域（「これ」）と聞き手の領域（「それ」）が対立している。

話し手に近いものを「これ」で、聞き手に近いものを「それ」で表す。

両者の領域外のものを「あれ」で表す。

融合型：「これはうちの実家の菩提寺で、あれは夫の家の菩提寺です。」

話し手の領域と聞き手の領域が融合していて、両者から近いものをコ系（「これ」）で表す。少し離れたものをソ系（「それ」）、遠いものをア系「あれ」で指す。

文脈指示：会話や文章の文脈にあるものを指す。

「もう遅いね。」太郎はそう言うと、立ち上がった。」

「こうも言えます。「時は満ちた」と。」（指すものがうしろにある。）

ア系は、観念指示とも言われ、記憶の中のものを指すのに用いる。

3. 「ボールのように丸い」直喩（「のように」などの比喩指標を用いる）

「君は女神だ」隠喩・暗喩（類似性による）メタファー

その他、以下のものも比喩の一種と呼ばれることがある。

「漱石を読む」換喩（近接性、隣接関係による）メトニミー

「日本が勝った」提喩（全体と部分の関係）シネクドキ

「花が舞う」擬人法

解説

基本的な概念について、日本語学でどう説明されているかを問い、具体的な例を提示させるものである。概念の理解と、適切な例を挙げることのできる力は、日本語学を学ぶ者にとって重要である。

問題 2

出題のねらい

本設問は、日本の地域日本語教育が歩んできた歴史的経緯と、それに伴う教育理念の変容を体系的に理解しているかを問うものである。単なる用語の羅列ではなく、移住者の多様化という社会背景と、従来の「教える／教えられる」という固定的な関係性を超えた「共生」へのパラダイムシフト、さらには近年の法整備による体制の変化を、論理的な一貫性を持って説明できる能力を評価する。

解答例

（全 18 用語に下線を引いた論述文）

日本の地域日本語教育は、時代ごとの移住者の背景と密接に関わって発展してきた。1970 年代後半のインドシナ難民の定住支援に始まり、1980 年代には中国帰国者、1990 年の入管法改正以降は日系人、さらには日本人と結婚した移住配偶者など、対象は多様化してきた。これに伴い、在留外国人数は右肩上がりに増加し、日本語教育は単なる「語学学習」を超えた、地域社会における重要な基盤となっている。

初期の地域日本語教室では、専門的な教師が一方的に教える文型積み上げ型の指導が主流であった。そこでは教える側が「教育者」、教わる側が「生徒」という固定的な権力関係が生じやすく、学習者の生活上のニーズが反映されにくい側面があった。しかし、多文化共生の理念が浸透するにつれ、教え・教えられる関係を問い直す動きが加速した。

現在の地域日本語教育では、一方的な「教授」ではなく、参加者全員が対等な立場で経験

を共有する参加型学習や学び合いが重視されている。ここでは、教え手は一方的な知識の伝達者ではなく、学習の場を円滑に進めるファシリテーターとしての役割が求められる。また、活動の最後には振り返りを行うことで、学習内容の定着だけでなく、参加者同士の相互理解を深める仕組みが取られている。

一方で、現場を支えるボランティアの高齢化や、支援の質の格差が課題となっている。これに対し、多様な背景を持つ学習者の生活を包括的に支えるため、教室内の指導だけでなく、地域のリソースをつなぐコーディネーターや、伴走的な役割を担う支援者の存在が不可欠となっている。

こうした状況を受け、2019 年には「日本語教育の推進に関する法律」（日本語教育推進法）が施行された。これにより、日本語教育の推進は国や行政の責務であることが明確化され、法的な裏付けのもとで体制整備が進められている。今後の地域日本語教育には、単なる言葉の習得にとどまらず、多様な主体が連携し、対等な関係性の中で共に社会を築いていく役割が期待されている。

解説

論述のポイントは、用語を「歴史」「教育実践のあり方」「体制の変容」の三軸で関連付けることにある。

まず歴史面では、難民や帰国者支援から始まり、社会状況の変化に伴い在留外国人が急増した流れを整理する。教育実践の面では、教師から生徒へ知識を伝達する従来の文型積み上げ型指導が内包する権力関係を指摘し、現在はファシリテーターが介在する学び合いや参加型学習といった、双方向的な関わりへと理念が移っていることを示す。最後に、現場のボランティア活動を支えるコーディネーターの重要性と、行政の責務を明確化した日本語教育推進法の意義を結びつけることで、地域日本語教育が単なる語学支援から社会基盤へと発展した背景を浮き彫りにすることが求められる。